

夏休みエコいえ作り体験ワークショップ

in 船坂 を開催しました！

住まいづくりニュース



第 10 号

平成 28 年 8 月 6 日（土）、船坂里山学校（旧船坂小学校跡施設）にて「夏休みエコいえ作り体験ワークショップ in 船坂」を開催し、暑い中合計 51 名の方にご参加いただきました。

当日は、平成 24 年度の市民ワークショップ「宮っ子エコいえワークショップ」の内容をまとめた「宮っ子エコいえBOOK」を基に、自然と共生した住まい「エコいえ」について学び、船坂地区に残る茅葺屋根の古民家改修現場の見学をした後、学んだことを生かしてエコいえの模型作りを行いました。

講師には、人・まち・住まい研究所の浅見雅之先生、中北幸環境・建築研究所の中北幸先生、一級建築士事務所 YURIDESIGN の前田由利先生をお招きし、「エコいえ」に関するレクチャー、「エコいえ」の模型づくりのアドバイスをしていただきました。また、古民家改修現場の見学では、武庫川女子大学の学生さんが中心となって古民家の再生を行っている「古民家族」の皆さん、そのサポートをされている古材問屋の明木哲生さんにご協力いただき、実際の「エコいえ」を肌で体感してもらいました。

□1. 「エコいえ」について学ぶ

先生のお話(15分×3=45分)



はじめに浅見先生から、人が暑さを感じる原因やエコいえで暑さを避けるコツについて、ひさしのシミュレーションを使いながら、分かりやすくお話いただきました。

エコいえで暑さを避けるコツ

ポイント①「太陽の光をうまく使います。」

夏の暑いときは、窓の上にひさしをつけて太陽光を屋内に入れない工夫をします。

ひさしの例として、外付けルーバー（ブラインド）やすだれがとても優秀です。

ポイント②「壁を通りぬける熱をさえぎります。」

高気密性、高断熱という言い方をしますが、壁の中に断熱材を入れて熱を防ぐ方法を言います。

例えば、屋根であれば、草屋根は、高断熱といえます。昔の古民家は、高断熱で高蓄熱です。

ポイント③「風や空気の出入りを調節します。」

換気扇をイメージすればわかりやすいです。例えば、天井に扇風機がついている建物（レストラン）は、冬に天井にたまった暖かい空気を下に下ろすためにしています。



浅見先生

次に中北先生から「自然と友達に」というテーマでご自身の自邸での実践をもとにお話いただきました。



中北先生

『自然』というと地震や津波等人間に害を与えるイメージがありますが、知恵をうまく働かせると自然の恵みを住まいの中に取り込むことができます。私自身、阪神淡路大震災をきっかけに自然に対して目を向けたすまいづくりを考えるようになりました。例えば、太陽からの光であれば、屋根で受けた熱を蓄熱し、冬であれば通気口から 1 階の床下に取り込んで室内の暖房のために使います。夏は、温風でお湯をつくりお風呂に利用しています。実際にガス代はほとんどかかっていません。また、雨水であれば、トイレの洗浄水として使えますし、災害のときの備えにもなります。

最後に、前田先生から「草屋根」を切り口にして環境への負荷を抑えて快適に暮らす方法について、自邸や旅先（ドイツや北欧）での事例を交えながらお話いただきました。

「日本は植生が豊かなので、草屋根にすることによって四季折々の植物が育ちます。例えば、ヨモギができれば団子にしたり、あるいは畑にしてメロンやスイカの栽培をして食べたりしています。元々私の事務所を立ち上げたのは、環境への負荷の少ない住まいづくりをしたいと思ったことがきっかけです。実際に草屋根は環境への負荷が少なく、カラーベストの屋根であれば夏になれば、表面温度が60℃近くになりますが、草屋根は35℃程度にしかなりません。なぜなら、植物自身が枯れないように熱を放出し温度を下げようとするため、建物自身の温度は上がらないからです。また、家の中だけでなく家の外側に対する環境への負荷を少なくすることも大切です。例えば、地面を舗装せず雨水がしみ込むようにする工夫も大切です。植物が育ちやすい環境を作ることも大切です。」



前田先生

先生のレクチャーを聞いた後は、実際のエコいえを見に行こう！ということで、船坂地区にある茅葺古民家の見学を行いました。ここでは、「エコいえ」を実際に体感した後、古民家改修現場に携わっている「古民家族」の学生さんから古民家についてわかりやすく説明して頂きました。

□2. 古民家の見学

見学（50分）



船坂里山学校から歩いて約10分のところにあります。

- 古民家の屋根はとても分厚く空気を含んでおり断熱材の役割を果たしているため外と中で体感温度が約5℃違います。
- 萱（かや）はストローのように筒状になっており、表面にそってそのまま水が流れるため雨漏りしません。
- 屋根が意外にも瓦よりも重いです。
- 古民家は免震構造で地震に対して力を逃がしています。
- 萱は自然からとってきており腐っても植物の肥料になるためとてもエコといえます。



<室内外温湿度計測の結果>

(室内) 温度 29.5℃ 湿度 65%

(室外) 温度 41.3℃ 湿度 36%



皆さん興味深そうに聞いていました。



古民家族さんから説明

講師からのレクチャーと実際のエコいえ（古民家）を見学することで具体的なイメージが出来上がったところで、ランチの後に模型作りをしました。

□3. 「エコいえ」を作る

工作（130分）



模型作りでは、骨組みの家キットに、発砲スチロールやストローやすだれ等の工夫材料を加えてそれぞれのエコいえに仕上げていただきました。



□4. 「エコいえ」工夫ポイント発表

発表（35分）



個性豊かな26軒のエコいえが出来上がり、講師の先生方からのコメントを頂きながらそれぞれの工夫ポイントや感想について何人かの子供たちに発表してもらいました。

みんなの工夫した点・作ったエコいえ

- 南側の屋根にストローをつけて断熱性を良くしました。
- 屋根に窓を開けて空気のとおり道を作りました。
- 雨水槽をペットボトルで作り雨水を貯められるようにしました。
- 緑のカーテンをつけて涼しくしました。
- 屋根を長くして影を作り快適に過ごせる場所を作りました。



最後に、浅見先生から「エコな暮らしについて考えるときに、単に高気密、高断熱性を追求したエネルギーを使わないことだけを考えるのではなく、小川のせせらぎや風鈴などといった「涼しげなビジュアル」も大事で、みんなにとってより気持ち良く快適に過ごすことができるのかといったことに気づいてもらえれば。」というお話をいただき、ワークショップは無事終了しました。

講師のプロフィール

浅見 雅之(あさみ まさゆき)

合同会社 人・まち・住まい研究所の代表社員。自然と共生した住まい(エコいえ)の観点で設計業務をする傍ら、摂南大学理工学部の講師やまちづくり専門家として多方面で活躍。「宮っ子のいえアドバイザー」として西宮市内でエコいえの出前講座にも対応。

前田 由利(まえだ ゆり)

一級建築士事務所 YURIDESIGN 代表。草屋根の建築家として数多くの自然と共生した住まい(エコいえ)を手がけている。また「住宅・環境・屋根緑化」をテーマにした講演・執筆活動など、多方面で活躍。「宮っ子のいえアドバイザー」として西宮市内でエコいえの出前講座にも対応。

中北 幸(なかきた こう)

「中北幸環境・建築事務所」代表。地球環境及び人間の健康に配慮した住まいづくりを中心に設計活動をおこなっている。安藤忠雄建築研究所に16年間入所し、西宮市内では甲山自然学習館の設計にも携わっており、多方面で活躍。「宮っ子のいえアドバイザー」として西宮市内でエコいえの出前講座にも対応。

古民家族(こみんかぞく)

武庫川女子大学生生活環境学部の学生有志が主催している古民家再生団体で、西宮市山口町船坂にて毎月1・2回活動している。解体寸前であった茅葺き古民家を、伝統工法に基づきボランティアで修復し、その過程で日本の伝統文化や建築様式について研究している。

船坂里山学校(旧船坂小学校跡施設)について

明治6年に開校し平成22年3月末の閉校まで、137年の歴史を有する西宮市で最も古い小学校のひとつで、校舎の大部分が木造となっています。現在、地域の皆さんと市が協働して跡施設の活用について取り組んでいます。平成28年4月より「船坂里山学校」に名称を変更。

皆さんの地域でも「エコいえ作り体験ワークショップ」をしませんか？

皆さんの地域でもエコいえ作り体験ワークショップを行いたい場合は、「宮っ子のいえアドバイザー派遣制度」を活用して開催することが可能です。
「宮っ子のいえアドバイザー」がお手伝いに伺います。
詳しくは市HP「宮っ子のいえアドバイザー派遣制度」をご覧ください！



今後もこのようなイベントを通じ、「エコいえ」について学ぶ場を提供していきたいと考えておりますので、引き続きすまいづくり推進業務へのご理解・ご協力をよろしくお願い致します。